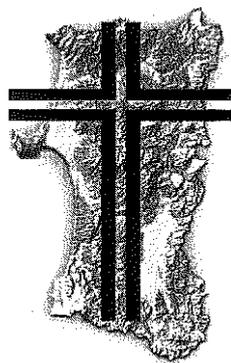


# 2023 年秋田豪雨災害支援活動報告書



日本基督教団奥羽教区

## 謝 辞

奥羽教区議長 小林よう子

2023年7月14日から16日にかけての秋田豪雨で、まず15日に秋田市の駅周辺地域の被害が報道されました。外からではそれがどのくらいの範囲で、実際の被害がどのようなものかということがなかなかわかりません。けれども15日のうちには、秋田桜教会雲然俊美教師から、秋田檜山教会の状況を知らせる写真が送られてきました。そこから、教区としての対応が始まりました。

18日に臨時の教区常置委員会がZoomで行われて対応が話し合われ、23日には秋田地区を中心にした秋田豪雨災害支援委員会が立ちあがりました。このような災害の状況では、すぐに外から被災地に入っていくことは難しく、今回も地元の秋田地区の教会の皆さんが互いを訪問して被害状況を把握し、教会として大きな被害を受けた秋田檜山教会を中心とする支援に動き出しました。被害の状況とそれにどのように対応すべきかを検討し、具体的な支援と募金の呼びかけが行われました。

募金については教区として教団全体への呼びかけを行いました。8月に発行される『信徒の友』9月号でも教区の報告が開催され、教団の全教区から応答をいただきました。多くの方が被害に心を寄せてくださり、祈り、覚え、応えてくださったことは、特に秋田地区のつながりを強め、励ましとなりました。主のもとにある交わりに感謝いたします。

小林よう子 八戸小中野教会牧師

# 目 次

「謝辞」 小林よう子奥羽教区議長	1
I. はじめに 秋田豪雨災害と支援活動を振り返って	
「振り返って」 各支援委員より	3
II. 秋田豪雨災害支援委員会活動	
1. 組織	6
2. 設立の経緯と活動内容	
(1)委員会活動	6
①被害状況の把握と支援の検討	
秋田檜山教会会堂・集会室・牧師館、各教会被災信徒宅	
(2)ワーク活動（於秋田檜山教会）	7
①準備、計画	
②第一期ボランティアワーク	8
・支援団体・協力者・参加者	
・ワークを振り返って	
・食事ボランティア	
③ワーク後の諸課題	9
・追加工事等	
・物品の事後処理	
(3)会計報告	15
III. 全国募金	
1. 全国募金のための活動	10
2. 協力者一覧	11
3. 決算書	14
IV. 今後に向けて	
1. 防災ネットワーク	15
2. 信仰共同体としての教会	16
あとがき	17
資料	18～32

## I はじめに —秋田豪雨災害支援活動を振り返って—

秋田桜教会 雲然 俊美

秋田豪雨災害支援活動を振り返って思うことは、全体を通して、秋田地区内の信徒・教師がとても良い協力関係を保って支援活動を行うことができたということである。これは、秋田地区において日常的に教会相互の交わりや協力関係が築かれていたため、素早い対応が可能となったということであると思う。また、奥羽教区常置委員会においては、オンラインを用いるなどして、スピーディな情報共有（被災状況の確認、必要とされる支援など）と機関決定（募金開始、ボランティア募集など）がなされたことがとても大きいことであったと思う。

そして、ボランティアワークを始めるにあたりSCF主事の野田沢教師よりアドバイスをいただいたことや、各支援委員が責任的に自分の役割を担って準備を進めたことが大きな力となったと言える。実際のワークにおいては、床下の泥のかき出しや消毒について経験のある信徒の働きが大きかったこと、ボランティアの宿泊場所の確保や食事作りといったことも実に手際よくなされたことが大きかったと言える。なお、牧由希子さん（ACTジャパンフォーラム事務局/CWS Japan ディレクター）が来られて、秋田豪雨災害支援ボランティアワークに加わってくださったほか、被災地および被災者の方たちに対する人道的支援活動をしてくださったことは本当に感謝であった。

なお、反省点は、被災した村尾政治教師といづみ教師に支援委員となっていたことである。そのため、村尾両教師には、ボランティアワークに必要な資材の調達やワークの段取り等についてかなりの負担をおかけすることになってしまった。村尾両教師には、委員ではなく、必要な場合に支援委員会に陪席をしていただくべきであったと思う。

ところで、この度の災害支援活動を担って、あらためて思わされたことがある。それは、当たり前なことではあるが、一口に「災害支援活動」と言っても、災害の種類（地震、火災、津波など）や被害の程度、地域性（ボランティアの集まりやすさや滞在先の確保など）によって、実に多様な対応が必要であるということである。そこで、できれば各地区において、災害発生時の連絡や対応、そして、基本的な支援活動についての申し合わせやマニュアルのようなものがあると良いと思った。特に、実際の支援活動においては、被災現場の状況によって支援活動のあり方が大きく異なるので、その地域の状況をよく知っている地区や近隣教会における協力を進めるためにも必要なことであると思う。

また、このことは、今後、教団全体で災害対応の検討を進めて行く場合にも大事なことであると思う。例えば、教団として災害対応の常設的な機関をもって、災害発生時にすぐに被害状況などを調査する人員を派遣し、支援活動計画を立てるといったことよりは、まずは、その地域の信徒・教師たちの活動と当該教区の対応を受けとめて、その支援をするということである。この度の災害対応では、東日本大震災の際の支援活動の経験で得た情報や技術も大切であったが、その他に、現場の状況に応じた柔軟な考え方と対応が求められたこともあったからである。

もはや、「災害は忘れたころにやって来る」ではなく、「災害は忘れないうちにやって来る」状況の中であって、この度の災害対応により、普段の備えが重要であることを強く思わされている。

雲然 俊美 秋田豪雨災害支援委員  
日本基督教団総会議長

脇本教会 中西絵津子

「災害はいつ、どこで起こるかわからない」そのことを痛感した夏であった。

「秋田は自然災害が少ない」というのが、県内の共通感覚だったと思う。私は関東から来たばかりの頃、「災害級」と思うような雪の中で園バスを出すことに驚いたものだが、土地の人々にとって暴風雪は当たり前、冬の日常の一部であるのだと、すぐに納得させられたのだった。

一方夏の台風は、日本列島に上陸しても秋田まではめったに来ない。学校も全校休校で備えたが次の朝は晴れ、ということもあった。だから今回、秋田市の中心部が浸水し、道路が川のようにになっている光景は衝撃だった。

すぐに駆けつけてくださった野田沢先生、災害級の暑さの中を奮闘してくださった多くのボランティアワーカー、共に労した支援委員、全国募金にご協力くださった多くの方たちに心から感謝している。災害は起こるが、助けもまた与えられる。そのことを実体験した夏だった。

中西絵津子 秋田豪雨災害支援委員長  
奥羽教区常置委員

秋田高陽教会 田中 真

「当事者は突然に」これが今、豪雨災害を振り返った時にまず思うことである。これまで、様々な災害をニュースで見してきた。しかし、自分の住む町が自然災害の当事者となり、自分が災害支援において最前線に立つときが来る。そのことを現実として考えたことはなかった。あったつもりでもなかったのだと思う。支援活動が始まってからは、がむしゃらに、ただひたすら、目の前にあるやるべきことをやって数か月が過ぎていった。

支援活動を振り返り、また 2024 年初めに起こった能登地震への中部教区の対応を見るときに災害発生時の初動を定めておくことの重要性を

切に思う。被災地の教会、牧師の状況に応じて初動が左右されるのではなく、教区として、地区と連携しながら、自然災害が発生した時の対応を明文化しておく。それがないと、動けない、動かないで起こる悲しみが増えてしまうのではないか。対応以上のことができるならそれは素晴らしいし、そうでなくとも、明文化された対応があれば、被災した教会・牧師、被災地の付近の教会・牧師は、それをまずすればよいと動き出すことができる。当事者となる現実は突然にやってくる。だからこそ、日ごろから備えておきたいのである。

田中 真 秋田豪雨災害支援委員書記・会計

秋田檜山教会 村尾政治

奥羽教区においては、豪雨災害後、素早く常置委員会のもとに「秋田豪雨災害支援委員会」が設置され良かったです。また、ボランティアワークを通して、教区、地区の教師、信徒が互いに祈り合い、助け合う姿を通して、キリストの体なる教会の姿を見ることができ感謝でした。私自身の反省点は、過去の知識を現場に一度押し付けてしまったことでした。そうではなく、現場の指示に従っていくべきでしょう。

今回、被災教会の牧師として支援委員に加わらせて頂きましたが、この件については、善し悪しがあるかもしれません。心が疲弊している中での備品調達、購入等は大変でした。また、本来ならば、災害後、すぐに地区長が教区と連携を取りながら、事柄を進めていくべきですが、地区長である私自身が被災者であった為、初手が遅れてしまいました(教会員の安否確認や泥出しがあった為)。今後、どんな災害が起こっても更に素早く対応できるように、教区(或いは秋田地区)としての「災害マニュアル」のようなものがあっても良いのではないかと感じました。

村尾 政治 秋田豪雨災害支援委員

秋田檜山教会 村尾いづみ

―被災教会の視点から―

被災直後は、教会・牧師館の現状と課題の把握、教会員はじめ周辺の被災状況の確認、諸連絡……と、すべきことが山積みで、何かからすべきか瞬時には判断しにくい状況でした。特に泥出しなど、人手と材料を要するものは自教会だけでは難しく、どこに声をあげれば良いのか戸惑いました。けれど主は、困難の中に多くの助け手を備えて下さり、奥羽教区も、即座に常置委員会のもとに支援委員会を設け、募金・ボランティアの呼びかけと実施を行なって下さいました。主は、どうすればというわたしたちの不安を取り除くだけでなく、教区・地区の教会との顔の見える交わり、教団の教会、兄弟姉妹に祈り支えられていることを知る恵みの機会を与えて下さったのです。また協力団体からの助けも心強く、感謝でした。

しかし被災者でもある自分が、どう動くべきかわからないことも多くありました。支援委員会の一員である以上、自分が担うべきと思って受けた働きがオーバーワークになっていたり、実際の作業リーダーでないわたしが事前準備を担ったことで無駄が生じたり、結局迷惑をかけたしまったことは、大きな反省です。けれどこの経験もまた、今後の支援体制構築に生かされることを思い、感謝のうちに記します。

村尾いづみ 秋田豪雨災害支援委員

男鹿教会 飯田平和

東日本大震災が起こった時、私はカナダに留学中で、ボランティアに参加する事はありませんでした。また秋田は、自然災害が少ないと聞いていたので、自分は災害ボランティアには縁がないものと思っていました。ですから今回の秋田豪雨災害は、ただただ驚きでした。

今回被災した秋田檜山教会の村尾政治教師は

地区長をされていたため、書記の自分が何か行動しなければいけないと思いました。ですが、村尾教師の迷惑になってはいけないと連絡を最小限にしていたため状況が分からず、実際に自分にできる事が分からないまま時間が経っていきました。

そんな中、SCF主事の野田沢教師が秋田まで来てくださり、アドバイスを受け、奥羽教区として秋田豪雨災害支援委員会を組織する事ができました。主が助けを送ってくださった事を実感しました。結果として、秋田地区としてではなく奥羽教区として支援することができて良かったです。

飯田平和 秋田豪雨災害支援委員

宮古教会 森分和基

秋田豪雨災害で被災された方、今もなお悲しみ痛みの中にある方々に神様の慰めと励ましと、具体的なお支えがあることを祈り願う。

秋田豪雨災害が起き、支援委員会より要請を受け、常置委員会より東日本大震災の経験を踏まえてアドバイザーに選ばれて、支援委員会のメンバーに加えられた。

オンラインでの委員会に参加する形でアドバイスするよりは、思いを共有し応援するという気持ちで臨んだ。個人的に意識していたことは、災害は起きた場所で被害状況は違い、被災された方、支援する方も、地域も当然違うため、東日本大震災の経験を委員会に押しつけないこと、支援活動に支障がないようなサポートすることを心がけた。

東日本大震災で被災したことは悲しく苦しい経験であったが、秋田豪雨災害支援に何らかの形でお支えできたのであれば嬉しく思う。

森分和基 秋田豪雨災害支援委員会アドバイザー

## Ⅱ. 秋田豪雨災害支援委員会活動

### 1. 組織

奥羽教区常置委員会

飯田平和(男鹿教会) 雲然俊美(秋田桜教会)、  
田中真(書記・会計 秋田高陽教会)、  
中西絵津子(委員長 脇本教会)、  
村尾いづみ 村尾政治 (秋田檜山教会)、  
森分和基(アドバイザー 宮古教会)

### 2. 設立の経緯と活動内容

#### (1) 委員会活動

##### ①被害状況の把握と支援の検討

###### ・委員会設置に至る経緯

2024年7月15日(土)より降り続いた雨は、秋田市内に甚大な被害をもたらした。奥羽教区・秋田地区に連なる教会、信徒宅においてもそれは例外ではなかった。同日18時11分、秋田地区長村尾政治牧師(秋田檜山教会)からの地区諸教会宛のメールでは、被害状況の報告の呼びかけと、翌日の礼拝を主を守ってくださるよう祈る旨が記されている。この時点で秋田檜山教会は教会前の道路が冠水し、これ以上の増水があれば浸水を免れ得ない状態であった。

一夜明け、秋田市内の教会の状況は下記の通り。

秋田檜山教会：敷地内に浸水し、前日夜に村尾政治・いづみ両牧師は対面にある聖霊高等学校に避難。自宅礼拝に切り替え。

秋田高陽教会：檜山地域に居住する数名の教会員より、大雨のため礼拝に集うことが不可能であるとの連絡が入る。教会は被害なし。少人数で主日礼拝を守る。

秋田桜教会：教会から500m先の道路が冠水しており、会員の安否確認の祭は道路を迂回しなければならなかつ

た。教会の被害は無かったが、地域の避難所で一晩過ごした会員や、市内の家族宅に避難した会員がいた。礼拝出席は7名であった。

下浜教会：教会も会員宅も比較的高い場所にあるため、被害は無かった。礼拝も通常通り行った。

16日(日)の午後より、地区内各教会では被災状況の確認に入った。報道にもあったように、特に秋田市東部および中心部、檜山教会が建つ檜山地域で甚大な浸水被害が出ており、当該地域に居住する教会員に被害が出ていることが判明していった。また、翌日より開催予定であった秋田地区修養会(於：秋田市さとみ温泉)については中止が決定した。

16日(日)から始まる一週間に、秋田地区では被害状況の確認、取りまとめを行った。また、同時に会堂が被災した秋田檜山教会および被災者の救援活動の検討が開始された。7月20日(木)の村尾政治地区長からのメールによる被害状況のまとめは下記の通り。

秋田県記録的大雨(7月15日(土)~16日(日))による各教会、教会員宅、関連施設の被害状況(※車庫の浸水については建物被害の件数には入っていない)

<秋田市内の教会>

・秋田檜山教会会堂、牧師館共に床下浸水。16日(日)の礼拝は、道路冠水の為、やむをえず、自宅礼拝とした。

・秋田高陽教会、秋田飯島教会、下浜教会、秋田桜教会は被害無し。

<秋田市内の教会員宅>

・秋田檜山教会員3名が床上浸水。1名が床下浸水。

・秋田高陽教会員1名が床上浸水、2名が床下浸水。

・秋田桜教会員2名が床下浸水。

<秋田市外の教会>

・男鹿教会は、15日(土)から断水、また会堂の隣が山の為、16日(日)は自宅礼拝とした。

・建物の大きな被害なし

<秋田市外の教会員宅>

・特に大きな被害なし

<秋田婦人ホーム>

・母子生活支援施設、保育所、学童クラブは被害無し。

・母子生活支援施設に、保育所の子どもたち10名ほどが、保護者が迎えにくるまで避難した。また、近所の方たち6名が母子生活支援施設に避難し、宿直の職員ほかが対応した。

※後に八郎潟教会信徒の床下浸水の被害が追加  
21日(金)に西東京教区災害支援委員・SCF(学生キリスト教友愛会)総主事の野田沢牧師が秋田入りし、秋田檜山教会および秋田桜教会を訪問。檜山教会では村尾両牧師と、桜教会では雲然俊美牧師、田中真伝道師(当時)と面会し、教会の復旧について、今後の支援活動の可能性について懇談を行った。

22日(土)、上記に雲然真理子牧師を加えた5人を呼びかけ人とし、支援活動の開始に備えた地区内ボランティア登録の呼びかけを地区内諸教会に発信(別紙1)。また、雲然俊美牧師より奥羽教区三役宛に「秋田豪雨災害支援委員会(仮)」を設置することを提案する旨のメールが発信されている(別紙2)。ここから、奥羽教区、および秋田地区による豪雨災害支援活動がスタートした。

教区常置委員会における承認後、教区常置委員会のもとに「秋田豪雨災害支援委員会」が7月24日(月)組織された。構成員は中西絵津子牧師(委員長・脇本教会・教区常置委員)、田中真伝道師(書記・秋田高陽教会)、村尾政治牧師(秋田檜山教会・秋田地区長)飯田平和牧師(男鹿教会・秋田地区書記)、雲然俊美牧師(秋田桜教会)、村尾いづみ牧師(秋田檜山教会)、森分

和基牧師(アドバイザー・宮古教会・教区常置委員/第2回より出席)。なお、支援委員会を構成したのは上記の7名であるが、陪席として鈴木道也教区主事が第4回より出席した。

委員会において行ったのは基本的に下記の事項である。

- ・教会、信徒宅の被害状況の把握および現状確認
- ・支援募金の計画及び教区常置委員会に対する提案
- ・被害教会、信徒宅へのお見舞金の検討
- ・秋田檜山教会礼拝堂、集会室、牧師館のボランティアワークの計画及び実行

また、ボランティアワーク終了後、新たに秋田檜山教会集会室の床板のたわみが判明した際(豪雨災害起因)についての支援についても検討を行った。委員会は2024年2月末現在計9回、すべてZoom(オンライン会議)で行われている。

(田中 真)

## (2) ワーク活動

### ① 準備、計画 (別紙10)

豪雨被害を受けた教会および信徒宅への救援活動の構想は豪雨災害直後より存在した。18日(日)午後には早くも檜山教会信徒数名、田中真伝道師が檜山教会に参集し、敷地内の清掃を行っている。また、秋田檜山教会、秋田桜教会、秋田高陽教会のそれぞれにおいて、被災した信徒宅への救援活動が牧師、信徒により行われていたし、秋田檜山教会の床下の泥の除去には大人数での組織的な活動が必要であるとの認識が漠然と存在した。しかし、秋田地区長が牧する教会が被災し、牧師自身も被災者となり、それらを教区・地区の業として行うにはどうすればよいのか、知恵と賜物がまだ集まりきっていなかった。

それを具体化する契機となったのが、先述した野田沢牧師の来秋である。災害支援の経験豊富な同師のアドバイスによって、支援委員会の

組織、ボランティアワークの活動が一举に現実味を帯び始めた。そのため、豪雨災害支援委員会では、当初より秋田檜山教会でのボランティアワークを想定し、その準備を行った。

#### 第1回委員会（7月24日） 13:30～14:40

ボランティアの呼びかけについて、作業の期間・日時について、ボランティアの宿泊・食事の手配について

#### 第2回委員会（7月27日） 19:00～21:02

第一期ボランティアワークを8月8日（火）～11日（金）と決定、ボランティア募集の依頼文書（別紙3）、ボランティアの派遣をSCF（学生キリスト教友愛会）および西東京教区に要請（別紙4）登録票（別紙5）についての確認（申込期限は8月3日とした）、ボランティア保険について、作業用備品の購入について

#### 第3回委員会（7月30日） 20:00～21:26

ボランティア募集の現況、ボランティア誓約書（別紙6）の確認、作業スケジュール（村尾いづみ牧師作成）の確認、SCF（学生キリスト教友愛会）からのワーカーの受け入れについて、宿泊場所を秋田飯島教会、食事場所を秋田高陽教会に確定、ワーク時の委員の役割分担および参加日程について、第二期ワークを行う場合の日程を22日（火）～25日（金）に確定

#### 第4回委員会（8月4日） 19:00～20:48

ワーク時の現場リーダーについて、ボランティアの申し込み状況、作業の準備状況についての確認、詳細なスケジュールおよび支援委員会からの責任者について

### ②第一期ボランティアワーク

・支援団体、協力者、参加者（別紙11）

○ SCF（学生キリスト教友愛会）野田沢牧師の協力について

西東京教区災害支援委員・SCF（学生キリスト教友愛会）総主事である野田沢牧師は、村尾両牧師、飯田平和牧師、田中真伝道師と以前

より交流があり、豪雨災害発生時にもいち早く現地入りし秋田檜山教会の復旧について、教区・地区の支援活動について多くの有益な助言をしてくださった。野田師は、東日本大震災並びにそれ以後の日本各地での自然災害における支援活動で大きな働きをしてこられた、教団内において災害支援について最も熟知している牧師の一人である。

秋田檜山教会でのボランティアワークにおいては、教区内の協力者のみでワークを完遂できるかという懸念もあり、教区・支援委員会より西東京教区・SCFに宛ててボランティアワーカーの派遣を依頼し、結果4名のワーカーが与えられた。また、野田師も8日に現地入りしボランティアワークに参加した。

野田師は公的な記録に残る部分だけでなく、村尾両牧師の精神的なサポート、手探りであった支援委員会の活動についてのアドバイスにおいて、今回の支援活動に大変大きく貢献された。支援委員会一同、ここに改めて感謝を申し上げたい。

○ 他支援団体、協力者

・牧由紀子氏（CWS Japan ディレクター・ACTジャパンフォーラム）

ボランティアワークに必要な備品について、ACTジャパンフォーラムから支援を受ける際に尽力くださった。ACTジャパンフォーラムからは349,500円を備品購入支援として受けている。

・吉田眞（秋田高陽教会）、関口泉（男鹿教会）、菅生周一（秋田飯島教会）

信徒の立場から「協力員」として支援委員会の活動にご協力いただいた。吉田氏は高陽教会会計役員でもあり、ボランティアワークにかかわる現地会計の実働部隊として働かれた。関口氏はボランティアワークに全日参加され、現地活動の中心メンバーとして働いてくださった。菅生氏はボランティアワークのリーダーとして、作業工程の立案、事前準備などから一貫してボ

ランティアワークを導いてくださった。

(田中 真)

## 「ワークを振り返って」

ワークリーダー 菅生周一(秋田飯島教会)

もう何年か前の出来事のように感じていたが、また昨年のことだったと思ひ返す。

結果的にはとても良く出来た事業であったと感じている。私は現場作業の直接的なことを中心に動いたが、まずは事前の準備がよくなされていたと思う。そのことにより、現場でなさなければならぬ作業に最大限注力出来たからだ。結果として、予定していた二期にわたる計画を一期で終了させることが可能となった。

ワークの参加人数も、終わってみれば十分に満たされた。技術や経験だけでは作業は成り立たず、確かに数が必要である。そして各々が持つ特性や、自前の機器を持ち込んでの作業、それらが相乗効果を生み、あの結果に結び付いたのだった。

最も酷暑となった時期の作業だったが、そのことによる体調不良者も出さずに終えられたのは、後方支援が確実だったからだ。気の行き届いたスケジュール管理、十分な水分と食事。遠来者への宿泊の提供など、そうした全体での支援があってこそその事業であったと感じている。ねぎらいと感謝を伝えたい。

## 「食事ボランティアの奉仕について」

食事ボランティア担当 田中真(秋田高陽教会)

災害においてボランティアを行う際、食事はボランティア自身で準備することが基本である。しかし、この度の豪雨災害においては、地区内(=日帰り可能な)ボランティアのみでは作業を完遂することが難しいのではないかと懸念があり、奥羽教区および東京のSCF(学生キリ

スト教友愛会)からボランティアを募ることとなった。

こちらから依頼する以上、宿泊および食事の提供についても検討する必要があったこと、また、身体的な負荷を伴うボランティアは難しいが、それ以外のことならぜひ奉仕したいという地区内の教会員からの申し出等もあり、宿泊ボランティア向けに高陽教会で夕食を提供することとした。

呼びかけの結果、4教会より11名の食事ボランティアが与えられ、シフトを組みながら前泊を含め5日間(8月7日~11日)毎日夕食を提供することができた。メニューもボランティアの方々が丁寧に考えてくださり、ある日は豚キムチ丼、ある日は冷やし中華とマーボーナス、ある日はカレーとサラダ等、バラエティ豊かでボランティアにも大変好評であった。改めて奉仕して下さったお一人お一人に感謝申し上げたい。

(田中 真)

## ③ワーク後の諸課題

・追加工事等

秋田檜山教会について、水害によって故障した牧師館玄関ドアの取り替え、牧師館エアコン室外機1台及び教会エアコン室外機2台、女子トイレ、除雪機等の購入や修繕工事が必要となった。これらについては2023年内に全て、修繕、購入が完了した。水没し壊れてしまった除雪機に代わって、冬までに新しい除雪機を準備することができるかどうか不安だったが、間に合っで感謝している。また、水害後、時間の経過とともに会堂奥にある集会室の床にたわみが生じ、床の全面貼り替えが必要となった。床の全面貼り替え工事については、2024年1月15日(月)から開始し、約一ヶ月の期間を要した。また、今後、会堂外壁補修も行われる。皆様の祈りと献金によるお支えによって、復旧の道が守られている。心より感謝したい。

(村尾政治)

・物品の事後処理（別紙12）

今回のボランティアワークで使用した物品について、床下送風機や防水延長コード、運搬用一輪車といった長期保管に適したものについては、地区内教会で保管し、必要に応じて用いることとした。家電製品などは被災信徒宅や被災教会、及び必要とする地区内教会で用い、その他の消耗品や食品については、広域で支援活動を行なっている秋田市社会福祉協議会と story cat (NPO 法人あきた結いネット) に寄附し、有効に用いて頂くこととした。別表資料あり。なお、当初の計画では、ボランティアワークの長期化が見込まれ、相応の物品を準備したため、結果的には多くの物品（消耗品）が余った。

（村尾いづみ）

**第5回委員会 8月13日(日) 20:30~21:38**

今後の処理について、委員会としての振り返り、会計報告

**第6回委員会 8月20日(日) 20:15~21:47**

被災信徒宅の現状の確認とお見舞金について、被災教会の現状の確認と、牧師館備品購入支援について、村尾政治・いづみ牧師の保養の予定について、会計報告について、今後の支援委員会の活動について、備品の確認について

**第7回委員会 9月15日(金) 19:00~20:07**

教区問安について、秋田檜山教会、牧師館の備品購入状況、会堂共済等の状況について、村尾政治・いづみ牧師の保養の予定について、会計報告について

**第8回委員会 10月27日(金) 19:02~20:02**

秋田檜山教会集会室の床の張り替え、牧師館玄関ドア、除雪機、会堂共済等の状況について、被災信徒宅の状況について、村尾政治・いづみ牧師の状況について、今後の委員会活動、活動報告書作成、防災ネットワーク設立について、秋田豪雨災害の活動報告について、募金の締め切りについて、SCF ボランティアの交通費について

**第9回委員会 12月8日(金) 19:00~20:22**

秋田檜山教会集会室の床の張り替え、外壁修理等の状況について、被災信徒宅の状況について、村尾政治・いづみ牧師の状況と、車に対する補助について、秋田婦人ホーム職員被災者の状況の確認、活動報告書について、防災ネットワークについて、物品の処理について

### (3) 会計報告

15 ページに記載

## Ⅲ 全国募金

### 1. 全国募金のための活動

教区主事 鈴木道也(花巻教会)

全国募金のための活動を開始するにあたり、秋田豪雨災害支援委員会で支援に必要な額を試算、募金の目標額および要項を教区常置委員会に提案した。常置委員会の承認を得て、教区として、全国募金の呼びかけを開始した。

2023年7月29日、小林よう子総会議長と常置委員会名義により「秋田豪雨災害支援募金のお願い」を教区内の教会・伝道所に送付、教区と教団のホームページにも掲載した（その後、『教団新報』『信徒の友』にも掲載）。目標額は380万円、募金期間は8月1日～11月30日。使途は①被災教会・信徒宅補修支援（特に、被害の大きい秋田檜山教会の支援に用いる）、②被災教会・牧師館備品購入支援、③ボランティア受け入れ費用、④その他。

その後、全国より目標額を大幅に上回る募金が集まった。経過報告として11月6日、教区ホームページに「秋田豪雨災害支援募金 募金状況のご報告と御礼」を掲載した。

2. 協力者一覧 団体名・氏名(敬称略)

1	7月21日	西東京教区
2	7月25日	日本基督教団
3	7月31日	日本基督教団全国教会婦人会連合
4	8月1日	邑原宗男①
5	8月1日	京都教区
6	8月1日	高橋千沙子
7	8月2日	山崎往夫
8	8月3日	柴田則江(千葉県船橋市)
9	8月3日	聖ヶ丘教会
10	8月4日	A C T Japan
11	8月4日	大原敬
12	8月7日	兵庫教区事務所
13	8月7日	高橋真人
14	8月7日	新生釜石教会
15	8月7日	丹波望
16	8月8日	西那須野教会
17	8月8日	洛西教会
18	8月8日	No Nukes Goods Projects
19	8月8日	熊取教会
20	8月8日	秋南教会①
21	8月8日	能代教会
22	8月8日	東所沢教会
23	8月8日	杉並教会
24	8月8日	千歳教会①
25	8月9日	新宿シャローム教会
26	8月9日	鳴子教会気仙沼集会
27	8月9日	天満教会
28	8月9日	長岡京教会
29	8月9日	新潟教会
30	8月9日	吉祥寺教会
31	8月11日	佐渡教会
32	8月11日	田名部教会
33	8月11日	福島中央キリスト教会
34	8月11日	片倉教会
35	8月11日	江刺教会①
36	8月11日	サムエル保育園
37	8月11日	ダビデ保育園
38	8月11日	京北教会
39	8月11日	フタイキエコ
40	8月11日	川俣茂
41	8月11日	服部賢治
42	8月11日	曾武川栄一
43	8月14日	ヒグチヨウイチ
44	8月14日	長谷部裕子
45	8月15日	鎌田仁美
46	8月15日	櫻井重宣、克子
47	8月15日	長野県町教会
48	8月15日	伊豆高原教会
49	8月17日	西千葉教会①
50	8月17日	勝田台教会
51	8月17日	熱田教会
52	8月17日	高橋千寿子
53	8月17日	草津教会
54	8月17日	青山町教会①
55	8月18日	藤崎教会
56	8月18日	小幡正
57	8月21日	仙台五橋教会
58	8月21日	取手伝道所

59	8月21日	山越茂樹
60	8月21日	山澤直晃
61	8月21日	関東教区事務所
62	8月22日	京都丸太町教会祈祷会
63	8月22日	西川口教会
64	8月22日	大三沢教会
65	8月22日	涌谷教会
66	8月23日	塩釜東教会
67	8月23日	富野弥子
68	8月24日	近江八幡教会
69	8月24日	青山町教会②
70	8月24日	弘前西教会
71	8月25日	木野友義
72	8月25日	鎌倉泉水教会
73	8月25日	二戸教会①
74	8月28日	日本基督教団(二回目)
75	8月28日	柿ノ木坂教会
76	8月28日	池上信也
77	8月28日	馬込教会
78	8月28日	三本木教会
79	8月28日	五能線三教会合同礼拝
80	8月29日	京北教会
81	8月29日	西千葉教会②
82	8月29日	武雄教会
83	8月29日	上三川教会
84	8月29日	足利教会
85	8月29日	湯沢教会
86	8月29日	奥中山教会①
87	8月31日	鷹巣地の塩会 シャローム
88	8月31日	錦林教会有志
89	9月1日	邑原宗男②
90	9月1日	荻窪教会
91	9月1日	難波幸矢
92	9月4日	中野桃園教会
93	9月4日	洛陽教会
94	9月4日	大鰐伝道所
95	9月5日	久里浜教会
96	9月5日	仙台広瀬河畔教会
97	9月5日	仙台北教会
98	9月5日	須賀川教会①
99	9月5日	新庄教会
100	9月5日	横手教会
101	9月5日	福島伊達教会
102	9月5日	日本基督教団東北教区
103	9月6日	静谷博子
104	9月6日	世光教会
105	9月6日	江刺教会②
106	9月6日	遠野教会
107	9月6日	市川三本松教会
108	9月6日	吐田郷教会
109	9月6日	久米田教会
110	9月7日	浪岡伝道所
111	9月7日	阿佐ヶ谷教会
112	9月7日	土沢教会
113	9月8日	小倉徳力教会
114	9月8日	天城教会
115	9月8日	澤木公子
116	9月11日	古和口健

117	9月11日	福岡警固教会
118	9月11日	三鷹教会
119	9月11日	名古屋北教会
120	9月12日	日本基督教団四国教区
121	9月12日	三戸伝道所
122	9月12日	廿日市教会
123	9月12日	琴浦教会
124	9月12日	秋田高陽教会①
125	9月12日	玉出教会
126	9月12日	旭東教会
127	9月12日	東久留米教会
128	9月13日	白戸清
129	9月13日	青森教会
130	9月13日	函館教会
131	9月13日	生駒伝道所
132	9月13日	青梅教会
133	9月14日	松戸教会
134	9月14日	筑紫野キリスト教会
135	9月14日	久我山教会
136	9月14日	増田芳江
137	9月14日	東村山教会
138	9月14日	八戸小中野教会
139	9月15日	大津東教会
140	9月15日	堺教会
141	9月15日	相武台教会
142	9月19日	旭川豊岡教会
143	9月19日	柏教会
144	9月19日	水沢教会①
145	9月20日	平塚中原教会
146	9月20日	長野県町教会②
147	9月20日	小金井教会
148	9月20日	桜美林教会
149	9月20日	阿佐谷東教会
150	9月20日	福生教会
151	9月20日	下関西教会
152	9月25日	常磐教会
153	9月25日	本田典子
154	9月25日	八幡ぶどうの木教会
155	9月26日	秋田高陽教会②
156	9月26日	原町教会
157	9月26日	登米教会
158	9月26日	霊南坂教会
159	9月26日	溝口敏江
160	9月26日	深川教会
161	9月26日	鈴木淳一
162	9月26日	南三鷹教会
163	9月26日	栗原郁夫
164	9月27日	喜多方教会
165	9月27日	田中文宏、真希子
166	9月27日	真駒内教会
167	9月28日	瀬戸内教会
168	9月28日	芦屋岩園教会
169	9月28日	福島新町教会
170	9月28日	川上純平
171	9月28日	藤沢教会
172	9月28日	鶴川北教会①
173	9月29日	桂教会
174	9月29日	邑原宗男③

175	9月29日	志真志伝道所
176	9月29日	南山教会
177	10月2日	秋田高陽教会③
178	10月2日	秋田桜教会
179	10月2日	佐野教会
180	10月2日	名寄教会
181	10月2日	邑原宗男④
182	10月2日	高根祐子
183	10月2日	秋田飯島教会
184	10月2日	秋田檜山教会
185	10月2日	江刺教会②
186	10月3日	山形六日町教会
187	10月3日	国分寺教会
188	10月3日	森晶子
189	10月3日	横浜指路教会
190	10月3日	花巻教会
191	10月3日	清水ヶ丘教会
192	10月4日	旭川星光伝道所
193	10月4日	向河原教会
194	10月4日	武蔵野横須賀伝道所
195	10月4日	福岡女学院教会
196	10月4日	下ノ橋教会
197	10月5日	大船教会
198	10月5日	北上教会①
199	10月6日	聖学院教会
200	10月10日	久保マサ子
201	10月10日	水沢教会②
202	10月10日	天野正子
203	10月10日	室町教会
204	10月10日	佐々木禎子
205	10月10日	花小金井教会
206	10月10日	盛岡松園教会
207	10月12日	岩崎恵美子
208	10月12日	茅ヶ崎恵泉教会
209	10月12日	小田原教会
210	10月12日	札幌教会
211	10月12日	館坂橋教会
212	10月13日	松山眞理
213	10月13日	日詰教会
214	10月16日	小平教会
215	10月17日	広島南部教会
216	10月17日	丸亀教会
217	10月17日	川崎戸手教会 社会委員会
218	10月17日	逗子教会
219	10月17日	手宮教会
220	10月17日	青森戸山教会
221	10月17日	飯田満里子
222	10月18日	三次教会
223	10月23日	豊中教会
224	10月23日	鎌倉雪ノ下教会
225	10月23日	敞和学園高等学校
226	10月23日	鷹巣教会
227	10月23日	笠岡教会
228	10月24日	武蔵野緑教会
229	10月24日	福知山教会
230	10月24日	宿河原教会
231	10月24日	秋南教会②
232	10月24日	村岡博史

233	10月25日	交野教会
234	10月25日	愛隣教会
235	10月26日	京葉中部教会
236	10月26日	大森栄
237	10月26日	かまいしこども園
238	10月27日	八郎潟教会
239	10月30日	馬見労務教会
240	10月30日	篠崎勲、久美子
241	10月30日	水口教会
242	10月30日	港復活教会
243	10月31日	横浜本牧教会
244	10月31日	奥羽教区内教会匿名
245	10月31日	脇本教会①
246	10月31日	ゴスペルクワイアシューブ
247	10月31日	三田教会
248	10月31日	湘北地区CSミーティング
249	11月1日	男鹿教会
250	11月1日	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校
251	11月1日	仙台松陵教会
252	11月1日	月寒教会
253	11月1日	箕面教会
254	11月1日	奥中山教会②
255	11月1日	河内天美教会
256	11月2日	村松一恵
257	11月6日	山形本町教会
258	11月6日	江刺教会③
259	11月7日	栃尾教会
260	11月7日	弘前学院大学宗教部
261	11月7日	大館教会
262	11月7日	首里教会
263	11月7日	大分教会
264	11月7日	海老名教会
265	11月8日	奈良教会
266	11月8日	同志社教会
267	11月8日	黒石教会
268	11月9日	新得教会
269	11月9日	宇和島中町教会
270	11月10日	小平学園教会
271	11月10日	水沢教会③
272	11月13日	栗原 健
273	11月13日	奥羽教区北東地区研修会
274	11月14日	川和教会
275	11月14日	藤沢北教会
276	11月14日	高座渋谷教会
277	11月15日	小金井緑町教会
278	11月15日	大曲教会
279	11月17日	札幌教会婦人会
280	11月20日	更生教会
281	11月20日	新発田教会
282	11月21日	鶴川北教会②
283	11月21日	大阪聖和教会
284	11月21日	筑波学園教会
285	11月22日	静岡中静分区婦人会
286	11月22日	五所川原教会
287	11月23日	宮古教会
288	11月23日	八戸柏崎教会
289	11月23日	二戸教会②
290	11月23日	森分和基

291	11月27日	松本教会
292	11月27日	神戸北教会
293	11月27日	横浜中田教会
294	11月27日	蒔田教会
295	11月27日	由布院教会
296	11月27日	花巻教会②
297	11月28日	伊勢崎教会
298	11月28日	尾道久保教会
299	11月28日	石山教会
300	11月28日	小長覚子
301	11月28日	青森松原教会
302	11月28日	防府教会
303	11月28日	茨城教会
304	11月28日	東中野教会
305	11月28日	七戸教会
306	11月29日	菊地裕光
307	11月29日	名古屋中村教会
308	11月29日	横浜本郷台教会
309	11月29日	大分東教会
310	11月29日	下松教会
311	11月29日	東京山手教会
312	11月30日	園田江美子
313	11月30日	井草教会
314	12月1日	静岡草深教会
315	12月1日	長谷川美子
316	12月1日	脇本教会②
317	12月1日	野辺地教会
318	12月4日	仁川教会①
319	12月4日	横浜岡村教会
320	12月4日	丸の内教会
321	12月5日	岩見沢教会
322	12月5日	東京府中教会
323	12月5日	東所沢教会
324	12月5日	衣笠病院教会
325	12月6日	八戸北伝道所
326	12月7日	志布志教会
327	12月7日	川井昭子、本多貴美子
328	12月7日	本荘教会
329	12月11日	六角橋教会
330	12月11日	水沢教会④
331	12月12日	仁川教会②
332	12月12日	池田五月山教会
333	12月13日	千歳栄光教会
334	12月13日	高井戸教会
335	12月13日	茨木東教会婦人会
336	12月13日	上星川教会
337	12月13日	茅ヶ崎平和教会
338	12月18日	夏井加代子
339	12月18日	内丸教会
340	12月19日	荻窪清水教会
341	12月26日	会津若松教会
342	12月27日	大船渡教会
343	12月27日	大船渡教会教員
344	12月27日	前橋教会婦人会
345	12月27日	水沢教会⑤
346	12月28日	三・一教会
347	1月5日	釧路教会
348	1月10日	鶴川北教会③

349	1月11日	阿佐ヶ谷教会
350	1月12日	奥羽教区教会婦人会連合
351	1月17日	玉川教会
352	1月17日	天童教会
353	1月17日	田園江田教会
354	1月17日	江別教会
355	1月18日	ひばりが丘教会
356	1月24日	松江教会
357	1月24日	広島西部教会
358	1月24日	川内教会
359	1月25日	高幡教会
360	1月25日	高槻教会
361	1月26日	下関彦島教会
362	2月6日	千厩教会②
363	2月13日	大阪淡路教会
364	2月14日	弘前南教会①
365	2月19日	弘前南教会②
366	2月20日	島之内教会
367	2月22日	大船渡教会②
368	2月26日	宮城学院キリスト教センター
369	3月19日	北上教会②
2024年度		
370	4月1日	弘前教会
371	4月16日	名瀬教会
372	4月16日	室蘭知利別教会

決算書は2024年3月末で締めています、  
一覧表には、2024年4月現在のお名前を  
記載しています。

### 3. 決算書

#### 2023年度 秋田豪雨災害支援会計決算書(2023.7～2024.3)

単位:円

支 摘	要	出 金額	科 目	収 入	
				金額	摘 要
			教団・教区・支区	9,605,885	369件
ボランティア活動費、会議、問安費用等		1,233,347	活 動 費		
領収書用切手代		19,530	事 務 費		
	16名	1,600,000	見 舞 金		
	秋田檜山教会	3,430,800	災 害 援 助 金		
		3,322,208	次 年 度 繰 越		
		9,605,885	合 計	9,605,885	

#### 2023年度 秋田豪雨災害支援会計貸借対照表(2023.7～2024.3)

単位:円

借 摘	要	方 金額	科 目	貸 方	
				金額	摘 要
岩手銀行 普通預金		3,322,208	銀 行 預 金		
		0	現 金		
			当 期 繰 入 金	3,322,208	
		3,322,208	合 計	3,322,208	

### (3) 会計報告

会計 田中 真(秋田高陽教会)

支援委員会の活動当初、奥羽教区より 300 万円を支出し、これをもって支援活動の原資をすることとした。その上で全国募金を行い、教区に返金することとした。雲然委員が募金の目標金額の試算を行い(別紙7)、教区常置委員会の承認を得た上で奥羽教区より全国の諸教会・教区宛に募金を募った(別紙8)。

3月31日現在、募金は総計9,605,885円、支出総計は6,283,677円。差し引き残高は3,322,208円である。そのうち、秋田檜山教会におけるボランティアワークの活動費用は671,329円であった。なお、これらの会計については、教区常置委員会において佐伯勲牧師(鷹巣教会)、森豪司伝道師(本荘教会)を監査委員として選任し、監査を受けた結果問題のなかったことを報告する(別紙9)。(田中 真)

## IV 今後に向けて

第9回秋田豪雨災害支援委員会において、田中書記より、今後の展望として防災ネットワークの構築可能性について報告された。本項では、その内容の要約と、2024年1月に発生した能登半島地震における中部教区の対応も踏まえた付記をもって今後に向けての提言とする。

### 1. 防災ネットワーク

現在、日本基督教団においては全教団を横断する形での災害対応を行う部署およびポストは存在しない。災害支援においては、教団が上からのリーダーシップを執るというよりも、被災地および当該教区が対応を行い、教団はそれを側面から支援するという形になっているように思われる。今回、秋田豪雨災害の支援においては、奥羽教区常置委員会のもとに秋田豪雨災害支援委員会を組織し、秋田地区の教職が中心となって支援活動を計画、実行した。

しかし、本報告書から読み取ることができるように、その初動においては、西東京教区災害支援委員・SCF(学生キリスト教友愛会)総主事の野田沢牧師の経験と助言に多くを助けられた。それは、災害対応、支援において、支援の業を担った秋田地区の教師がそれほど習熟していたわけではないからである。この現状は、今回の豪雨災害に限らず、自然災害における教団の対応においてよく見られることであると報告者(注:田中真)は感じる。

その意味で、教団、教区、地区が連携しての災害対応、特に初動に関しては、まだまだ検討の余地があり、ポテンシャルがあるといえる。今回の災害対応を契機として、平時よりどう災害に備えた取り組みを行っていくかを検討することは非常に有意義であると考えられる。

そうした取り組みにおいて先んじていると思われる例として、支援委員会では「東海キリスト者災害ネット(<https://tcdn.info/>、以下TCDN)」について報告した。東海地域は南海トラフ地震、及びそれに伴う津波の脅威が現実として存在する地域である。

代表挨拶には「この東海地方において、元来日本基督教団愛知西地区では、地震が発生する日に向け対処する部署が備えられていました。また東海福音フェローシップ傘下の福音派諸教会には地震委員会が存在し、これまで全国各地で発生した災害時に災害ボランティアを派遣するなど継続的な活動がなされてきました。そしてペンテコステ系教会では、災害時対応の救援の活動の志があり、災害発生時には迅速な救援活動を行ってきました。以上の3者が地震発生時に情報を共有し、臨機応変の連携をして救援活動をしてはどうかと検討される中で、東海キリスト者災害ネットが発足することになりました。わたしたちも東海キリスト者災害ネットは、この東海地域の全てのキリスト教関係者が災害時に協力し合うネットワークとして、いざという自然災害の日に備えたいと願っています。」と

あるように、中部教区が組織的に関わる団体であることが、大きな特徴と言える。

詳しくは当該ホームページをご照覧いただくとして、支援委員会においてはこれらの働きを踏まえて、私たちが今後教区として、地区として取り組みうることについて、下記の提言がなされた。

- ・それぞれの地域で超教派の交わりを持ち、顔の見える関係を構築する。
- ・秋田地区内で今回の災害対応について改めて分かち合いの時を持ち、教会ごとの災害リスクの確認などに地区として取り組む。
- ・災害時の指揮系統について、(今回は地区長が被災者となった部分もあるとは言え) 決まっておらず、初動ができなかった=様々な場合を想定した対応集の作成
- ・地区として防災啓発活動に取り組む
- ・教会だけでなく、NPO や社協などとの従来からの関係性を構築していく等

以上が支援委員会における報告内容である。さて、2024年1月に発生した能登半島地震においては、現在(2024年2月)、中部教区が被災教会の対応に当たっている。中部教区においては原則、教区が定めた災害マニュアルに沿って対応が進められている。その詳細を伺い知ることにはできないが、マニュアルを定めていたことによるメリットはあったのではないと思われる。

一方で、災害ネットワークの形成については、メリットの一方で、平時における関心の低さ、構成者の入れ替わりによる活動の停滞を伝え聞くこともあり、決して「ただ作るだけ」で役立つものではないということも考えさせられる。また、災害の規模、地域によって必要とされる対応は様々であり、決してマニュアル通りに行うことが最善ではないのも事実である。しかし、災害に直面して、そこから場当たりの対応することにならないよう、教区・地区において災害発生時の初動を定めておくことは決して無駄

にはならないし、各個教会が孤立せずに顔の見える関係を構築すること(地区であっても、有志であっても)は、災害発生時の救援活動に必ず資するだろう。月並みではあるが、重要なのは、災害対応が終わったらそれで終了ではなく、必ずやどこかで起こる災害に向けて、備えを見直し、将来につなげていく姿勢なのではないだろうか。(田中 真)

## 2. 信仰共同体としての教会

災害があると、常日頃の問題・課題が顕在化するとと言われる。超少子高齢化、過疎化の著しい秋田県の市町村の中で、秋田市だけは「消滅可能性」の低い、繁華で安全なエリアだと思われていた。しかしこの度の豪雨災害で被災した秋田市の中心的地域も、高齢化を免れていたわけではもちろんない。このことの後、住み慣れた家での生活を諦めて、施設入所や子どもとの同居など、地域を離れた高齢の方たちが少なくないと聞いている。互いに気づかい合い、交流を持って来た隣人が去って行ってさみしいという声を何人かから聞いた。

東京一極集中と地方の衰退。首都圏も地方も、どちらも国家存亡につながる危機をはらんでいる。災害に備えるということは、私たちの日常的な問題に目を向け、それを解決していくことと両輪である。

超少子高齢化、地方の衰退、これは私たち日本基督教団が直面している教会の現実である。

「教会に人が来ない」と嘆いているだけでは、私たちは災害の前にも無力であろう。衰退する社会の中で、いきいきした信仰共同体を立てあげ、神の国に生きる希望と喜びを発信していくなら、私たちは闇に輝く世の光である。

築き上げられてきた地縁が失われ、人と人が切り離されていく時代にあって、私たち教会が呼び集められた者たちであること、互いに愛し合うために共にいることを、どうしたら明らかにできるだろう。その私たちが、日々新しい

命の力を得て、出て行って地域に仕える方法はないだろうか。それぞれの地の人々のために、主キリストがなさりたいと思っておられることはなんだろうか。

地道な日々の営みが非常時の力となる。朝ごとの祈り、週ごとの礼拝と祈禱会を積み重ねている教会は、いざという時に力を発揮できるはずだ。その地域に立てられた教会が、常日頃からその地の祝福となり、非常時に砦となれるならば幸いである。日頃よりその地域と人々のために祈り、関心を持ち、何かできる事はないかと気を配ることなしに、災害時に急に役に立てるだろうか。

都市部では、マンションの隣に住んでいる人の顔も知らないことがままある。共同体というものはほとんど存在していない。一方、奥羽教区のほとんどの地域はムラ社会であり、その共同体は過疎化によって崩壊しつつある。

今こそ、信仰共同体としての公同の教会が輝く時ではないだろうか。この共同体は、苦難の中にも変わらぬ平安と希望を持っている。そして、犠牲を厭わずに助け合い、最後まで走り抜いて栄冠を得る、最高のチームなのだから。

(中西絵津子)

## あとがき

2023年の夏から、早くも一年が過ぎた。正月早々大地震に見舞われた能登半島の被災地は未だ復旧の途上にあり、この夏には由利本荘市が豪雨によって大きな被害を受けた。

気候変動による洪水、土砂災害、干ばつ、巨大台風、熱波…神が創り給うたこの地球とそこに生きるものたちは、一体どうなってしまうのか。私たちに、何かできることなどあるのだろうか。

目を高く上げ、誰が天の万象を創造したかを見よ。

それらを数えて引き出された方

それぞれの名を呼ばれる方の

力の強さ、激しい勢いから逃れうるものはない。

主は、とこしえにいます神

地の果てに及ぶすべてのものの創り主

私たちは弱く小さい。しかし私たちは知っている。

この地が大きく揺らいでも、水が溢れ流れても、火がすべてを焼き尽くしたとしても…、この地で命を与え、罪から贖い出し、永遠の命を与えてくださった神を、私たちは礼拝し続けるのだ。 (E. N.)

資料 18～32 ページ

(別紙1) 日本基督教団奥羽教区

秋田豪雨災害支援活動について

(別紙2) 「秋田豪雨災害支援委員会」設置の提案

「秋田豪雨災害支援委員会」設置に関する件

(別紙3) 秋田豪雨災害ボランティアのお願い

(別紙4) 東京教区、SCF 宛て依頼文

(別紙5) ボランティア登録票(第一期)

(別紙6) 秋田豪雨災害支援ボランティア誓約書

(別紙7) 秋田豪雨災害支援募金目標金額試算検討資料

(別紙8) 秋田豪雨災害支援募金のお願い

(別紙9) 秋田豪雨災害支援委員会会計監査報告書

(別紙10) 準備物品一覧、寄贈品

(別紙11) 物品の事後処理一覧表

(別紙12) ボランティアシフト表

左記及び下記資料は、  
奥羽教区ホームページにて公開しています。

- ・ 委員会議事録 第1回～第9回
- ・ ワーク日誌
- ・ 委員会会計
- ・ 災害お見舞金配分表
- ・ 掲載原稿
- ・ 記録写真

「2023年秋田豪雨災害支援活動報告書」

2024年8月1日

編集 秋田豪雨災害支援委員会

発行 日本基督教団奥羽教区

## 資料

(別紙1)

### ◆日本基督教団奥羽教区 秋田豪雨災害支援活動について

#### ◎主な被害（周知済み）

<秋田市内の教会>

- ・秋田檜山教会会堂、牧師館共に床下浸水。自動車、除雪機等

<秋田市内の教会員宅>

- ・秋田檜山教会員 3軒が床上浸水。1軒が床下浸水。
- ・秋田高陽教会員 1軒が床上浸水、4軒が床下浸水。
- ・秋田桜教会員 2軒が床下浸水。

#### ◎支援活動の開始に備えて

現在、各教会では被害状況の確認と合わせて、教会の方からお手伝い出来ること、支援の必要な事柄について、丁寧にコミュニケーションを取っています。つきましては、支援活動が発生した時に備え、お気持ちのある方は下記の要領でボランティアワーカーとしての登録を行ってくださると幸いです。お願いする可能性も、お願いすることが結果的に無い可能性もありますが、どうぞよろしくお願い致します。

- ・応募先：秋田高陽教会 田中 真まで
- ・応募方法：（メールでお願いします！）[kouyou-church@gol.com](mailto:kouyou-church@gol.com)
- ・記入内容：氏名、所属教会、連絡先（電話・メール）、  
作業可能曜日（月曜から土曜）・時間帯（午前/午後）
- ・活動が発生する可能性がある期間：7月24日以降～8月一杯（前後する場合あり）  
※現時点で確実に対応出来ない期間があれば、記入して頂ければ幸いです

作業内容、作業場所は場合により異なりますので、作業が発生した時に詳細にお知らせいたします。各教会におかれましては、参加者の有無にかかわらず、地区内での痛みを共に担い合っていくことが出来るよう、祈り、お支え頂けると幸いです。

呼びかけ人 秋田桜教会 雲然俊美・真理子  
秋田檜山教会 村尾政治・いづみ  
秋田高陽教会 田中 真

---

この呼びかけについての連絡先（登録はメールでお願いします！）

秋田高陽教会 田中 真 (Tel: 018-823-2809)

(別紙2)

2023年7月22日

日本基督教団 奥羽教区  
議長 小林 よう子 様

## 「秋田豪雨災害支援委員会」設置の提案

秋田桜教会  
牧師 雲然 俊美

主イエス・キリストの御名を賛美いたします。

この度の秋田における豪雨被害につきまして、さっそくに常置委員会において支援をご検討いただきましたことを心より感謝いたします。とても心強く思っております。

今週、秋田檜山教会の被害状況および教会員宅の被害状況を確認しておりまして、豪雨後、日にちが経つにつれて被害の大きさが分かっている状況でして、これが、豪雨災害の恐ろしさであるということを実感している次第です。

つきましては、今後、支援活動を実施していく上で、支援の主体を、ぜひ奥羽教区常置委員会で担っていただけないかと思っております。東日本大震災の支援活動の際、奥羽教区は、教区常置委員会とは別に支援センター的なものを設置することはしませんでした。私は、これはとても良かったと思っております（教区の負担は大きかったです）。

そこで、今回は、別紙に記載しましたように、教区常置委員会のもとに「秋田豪雨災害支援委員会」（仮称）を設置していただき、地区と教区間の連絡や相談を密にして支援活動を進めることができると願っているところです。

ちなみに、昨日、SCFの野田沢（のだ たく）先生が秋田に来られ、秋田市内の教会の牧師たちが、この度の秋田の豪雨被害への対応についての助言をいただきました。また、そのような話し合いの中で、この委員会の立ち上げについては、雲然から奥羽教区常置委員会に提案をすることがよいのではないかということになった次第です。

現在、すでに秋田地区内の教会では支援活動を始めております。そのようなわけですので、大変申し訳ありませんが、できるだけ早くご判断いただければ幸いに存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

日々のお働きの上に主のお守りをお祈りいたします。

在 主

<提 案>

## 「秋田豪雨災害支援委員会」(仮称) 設置に関する件

提案者 雲然 俊美

奥羽教区常置委員会のもとに、「秋田豪雨災害支援委員会」(仮称) を設置する。

委 員：中西絵津子教師（脇本教会。常置委員）、  
村尾政治教師（秋田檜山教会。秋田地区長）、村尾いづみ教師（秋田檜山教会）、  
飯田平和教師（男鹿教会。秋田地区書記）、田中真教師（秋田高陽教会）、  
雲然俊美教師（秋田桜教会）

期 間：常置委員会における設置承認日～2024年3月31日。

活 動：秋田豪雨災害に関する諸支援活動の調整および取りまとめ、豪雨被害に見舞われた  
教会堂・牧師館、信徒宅の片付けや清掃作業のためのボランティアの募集・派遣、  
秋田地区内諸教会および奥羽教区への情報発信等。

予 算：5万円（委員会活動費、清掃作業用品購入費など）

<提案理由>

秋田県では、2023年7月15～16日に発生した大雨により、秋田市、五城目町、男鹿市等、  
広い地域において床上・床下浸水に見舞われました。教会関係では、秋田檜山教会が床下浸水  
に見舞われたほか、秋田高陽教会・秋田檜山教会・秋田桜教会の信徒宅において床上・床下  
浸水の被害が出ています。

そこで、被害に遭われた教会および信徒の方たちへの支援のために、奥羽教区常置委員会  
のもとに「秋田豪雨災害支援委員会」(仮称) を設置していただきたいと思います。

本支援委員会においては、教会関係の被害状況を把握すると共に、床上・床下浸水の被害に  
見舞われた教会堂・牧師館、および、信徒宅の片付けや清掃作業のためのボランティアの募  
集・派遣、地区内諸教会および奥羽教区への状況報告と情報発信等を行いたいと思います。

なお、委員は、奥羽教区常置委員の中西絵津子教師と秋田地区書記の飯田平和教師のほか、  
秋田市内の教会の教師たちとし、委員会は原則としてオンラインで開催することとします。

(別紙3)

## 秋田豪雨災害ボランティアのお願い

7月14日～16日の秋田県における記録的大雨によって、秋田檜山教会の教会堂、牧師館の床下全面に、泥水が入り込んでしまいました。そのため奥羽教区では、下記の要項でご奉仕下さるボランティアを募集します。なお、活動は1日のみでも全期間でも結構です。

どうぞ、祈りと共に活動にご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

2023年7月28日

日本基督教団 奥羽教区  
総会議長 小林 よう子  
秋田豪雨災害支援委員会  
委員長 中西 絵津子

### 《秋田豪雨災害ボランティア募集要項》

- 活動日程 第一期 8月8日(火)～11日(金)  
\*上記は作業日です。宿泊ボランティアの受け入れは、7日～12日となります。  
\*日帰りボランティア、部分参加も可能ですが、必ず登録して下さい。
- 活動場所と内容  
秋田檜山教会 礼拝堂、集会室、牧師館の床下の泥の除去及び、消毒、  
ボランティア参加者の食事の準備 など  
・床下に入って泥を集める、土嚢袋に入れた土を外に出す、柱などの泥をたわしで落とす、  
噴霧器で消毒、ボランティア参加者のための食事準備(買い出し、調理)
- 募集人数 一日最大20名程度 (うち、宿泊ボランティアは最大10名とする。)  
\*受け入れ人数を超えた場合、お断りすることがあります。ご了承下さい。
- 持ち物 作業着、靴(または長靴)、タオル、水筒、手袋(軍手の用意あり)、  
マスク(使い捨ての防塵マスクの用意あり)、寝袋(必要な方。基本雑魚寝です)、  
ゴーグル(共有であれば用意あり)、保険証。  
その他、各自必要と思われる物をご持参下さい。
- 宿泊場所 秋田市内教会：秋田高陽教会、秋田桜教会、秋田檜山教会
- 申し込み 別紙ボランティア登録票に、氏名、生年月日、住所、連絡先(メール、  
携帯番号など)、所属教会または所属団体、参加可能日程をご記入の上、  
「秋田豪雨災害支援委員会」書記 田中真(秋田高陽教会牧師)まで、  
3日(木)までにメールかFAXにてお申し込み下さい。  
メール [kouyou-church@gol.com](mailto:kouyou-church@gol.com) FAX 018(823)2809
- その他注意点
  - ・保険について 登録票をもとに、社会福祉協議会のボランティア保険に団体加入いたします。なお保険料は奥羽教区で負担いたします。
  - ・交通費は各自ご負担下さい。宿泊される方の朝・夕食事代、入浴代は奥羽教区で負担いたします。昼食代は各自ご負担下さい。

問合せ先 日本基督教団秋田高陽教会 田中真 携帯 080(9802)3881

日本基督教団 西東京教区 議長 岩田昌路様

学生キリスト教友愛会(SCF)のボランティア派遣依頼について

主イエス・キリストの御名を賛美いたします。

去る7月14～16日の大雨により、秋田県の秋田市、男鹿市、五城目町などの地域は、家屋や田畑への浸水、土砂崩れといった甚大な被害に見舞われました。特に、日本基督教団の教会関係では、秋田榎山教会の教会堂と牧師館が床下浸水となったほか、秋田市内の教団の教会の信徒宅が、床上浸水（7月27日現在4軒）、床下浸水（同11軒）といった被害に遭っています。

この度、奥羽教区では、教区常置委員会のもとに「秋田豪雨災害支援委員会」（委員長：中西絵津子教師）を設置し、被害に遭われた教会や信徒の方たちの支援活動を進めております。大雨の直後より、西東京教区にある教団センターの「学生キリスト教友愛会（SCF）」の総主事、西東京教区災害支援委員でもある野田沢教師が何回も現地に入って下さり、支援体制の構築において多くの助言とご協力を頂いています。大変感謝申し上げます。

この度、支援委員会では8月8日(火)～11日(金)にかけて、秋田榎山教会の床下に堆積している泥を除去するためのボランティアワーク（第一期）を実施することといたしました（詳細は添付しております別紙をご覧ください）。奥羽教区では、今回与えられた関係に感謝して、SCFに対してボランティアワーカーの派遣をお願いすることといたしました。

西東京教区におかれましても、これらの事をご承知いただきたく、お願い申し上げます次第です。

改めて、皆さまの祈りとお支えに心から感謝申し上げます。

2023年7月29日

日本基督教団 奥羽教区議長

小林よう子

秋田豪雨災害支援委員会 委員長

中西絵津子

(別紙4)

日本基督教団 学生キリスト教友愛会（SCF）

理事長 吉岡康子様 総主事 野田 沢様

ボランティア派遣のご協力をお願い

主イエス・キリストの御名を賛美いたします。

去る7月14～16日の大雨により、秋田県の秋田市、男鹿市、五城目町などの地域は、家屋や田畑への浸水、土砂崩れといった甚大な被害に見舞われました。特に、日本基督教団の教会関係では、秋田榎山教会の教会堂と牧師館が床下浸水となったほか、秋田市内の教団の教会の信徒宅が、床上浸水（7月27日現在4軒）、床下浸水（同11軒）といった被害に遭っています。

この度、奥羽教区では、教区常置委員会のもとに「秋田豪雨災害支援委員会」（委員長：中西絵津子教師）を設置し、被害に遭われた教会や信徒の方たちの支援活動を進めております。貴団体におかれましては、大雨の直後より野田沢総主事を現地へ派遣頂き、支援体制の構築において多くの助言とご協力を頂き大変感謝申し上げます。

この度、支援委員会では8月8日(火)～11日(金)にかけて、秋田榎山教会の床下に堆積している泥を除去するためのボランティアワーク（第一期）を実施することといたしました（詳細は添付しております別紙をご覧ください）。つきましては、貴団体よりぜひボランティアワーカーを派遣していただきたく、お願い申し上げます次第です。

ご検討のほど、よろしく願いいたします。

2023年7月29日

日本基督教団 奥羽教区議長

小林よう子

秋田豪雨災害支援委員会 委員長

中西絵津子

(別紙 5)

日本基督教団奥羽教区 秋田豪雨災害支援活動

ボランティア登録票(第一期)

記入日 2023年 月 日			
ふりがな			
名前	男・女		
生年月日	西暦	年	年 日 ( 歳)
所属教会・伝道所 所属団体	教区	教会・伝道所・所属	
住所	〒 —		
電話	— —	携帯電話	— —
Eメール	@		
活動(作業)日	8月8日(火)・9日(水)・10(木)・11日(祝・金) ○をつけてください		
宿泊期間 (希望者のみ)	月	日	～ 月 日
交通手段と 到着予定時間	<input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> 公共交通機関 ( ) 月 日 時頃到着予定		
その他	・アレルギー等留意する点や特記事項		
	・希望する活動内容		

ご記入頂きました情報は、今回の活動に関わる業務以外の目的で使用いたしません。

(別紙 6)

## 誓 約 書

私はこの度、日本基督教団奥羽教区を通して「秋田豪雨災害ボランティア」に参加するにあたり、下記の事項を守ることを誓約いたします。

### 記

- 1、ボランティア期間中は、支援委員及び牧師、スタッフの諸注意並び指示に従います。
- 2、ボランティアに参加するにあたり、事前に社会福祉協議会の「ボランティア保険」に加入することに同意します。
- 3、ボランティア参加に伴って生じる私自身、及び私の身の回りに対して被った損害・損失については、上記保険における補償以外、奥羽教区・支援委員会に対して一切の補償請求をしません。

以上

2023年 月 日

参加者氏名：

保護者氏名：

(未成年の方は、保護者の署名をお願いいたします。)

日本基督教団奥羽教区  
秋田豪雨災害支援委員会

秋田豪雨災害支援募金目標金額試算検討資料〔訂正版〕

使 途	金 額	内 訳
被災教会・信徒宅補修支援	1,500,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田檜山教会 20万円</li> <li>・被災信徒宅 床上浸水 10万円×3軒、20万円×1軒 (家具等の備品損壊多数の場合)</li> <li>床下浸水 5万円×9軒、10万円×1軒 (家具等の備品損壊多数の場合)</li> </ul>
被災教会・牧師館備品購入支援	1,300,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田檜山教会除雪機購入補助 50万円</li> <li>・秋田檜山教会牧師館床下点検口設置 6万円 (2万円×3箇所)</li> <li>・秋田檜山教会牧師館玄関ドア新規取付費用補助 20万円</li> <li>・村尾政治牧師自動車購入補助 50万円</li> </ul>
ボランティア受け入れ費用支援	800,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア交通費 40万円 (10名×4万円)</li> <li>・ボランティア滞在費 20万円 (10名×5日間×食費・日用品 4千円)</li> <li>・作業用備品購入 10万円 (専用マスク、ゴーグル、ビニール手袋、ゴミ袋、雑巾、長靴、バケツ、ブルーシート、土嚢袋など)</li> <li>・ボランティア保険加入費用 1万円 (20名×500円)</li> <li>・ワーク協力者関係費用 5万円</li> </ul> <p>*ボランティアの方たちには、月曜日に秋田に入っただき、火曜～金曜日 (4日間) にワークをし、土曜日に帰っていただくことを想定。宿泊は秋田檜山教会、秋田高陽教会、秋田桜教会に泊まっていた。</p>
その他	200,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村尾政治牧師・いづみ牧師保養費用 5万円 ほか。</li> </ul>
計 (目標額)	3,800,000円	

(別紙 8)

## 秋田豪雨災害支援募金のお願い

主イエス・キリストの御名を賛美いたします。

去る 7 月 14～16 日の大雨により、秋田県の秋田市、男鹿市、五城目町などの地域は、家屋や田畑への浸水、土砂崩れといった甚大な被害に見舞われました。特に、日本基督教団の教会関係では、秋田檜山教会の教会堂と牧師館が床下浸水となったほか、秋田市内の教団の教会の信徒宅が、床上浸水（7 月 27 日現在 4 軒）、床下浸水（同 11 軒）といった被害に遭っています。

この度、奥羽教区では、教区常置委員会のもとに「秋田豪雨災害支援委員会」（委員長：中西絵津子教師）を設置し、被害に遭われた教会や信徒の方たちの支援活動を進めております。現在のところ、信徒宅ではすでに家族や近所の方たち、および、教会員の方たちの協力のもとに片付けや清掃等の作業が進められています。しかしながら秋田檜山教会においては、教会堂・牧師館の床下全面に泥水が入り込んでしまったため、今後、ボランティアの方たちに来ていただき、業者にもお願いして、床下の泥の除去・乾燥・消毒作業を行う予定でおります。

つきましては、教会堂・牧師館損壊箇所の修理、使用不能となった備品（除雪機、車など）の購入、ボランティア受け入れ関係費用、そして、浸水被害に遭われた教会と信徒宅へのお見舞等のため、下記のように募金を開始することにいたしました。

どうぞ、祈りと共に支援募金にご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

2023 年 8 月 1 日

日本基督教団 奥羽教区  
総会議長 小林よう子  
常置委員会

### 《秋田豪雨災害支援募金》

- 目標額 380 万円
- 使 途
  - ①被災教会・信徒宅補修支援 150 万円
  - ②被災教会・牧師館備品購入支援 130 万円
  - ③ボランティア受け入れ費用支援 80 万円
  - ④その他 20 万円
- 募金期間 2023 年 8 月 1 日～11 月 30 日
- 送金先 振替口座 記号番号 02330-9-1432  
加入者名 日本基督教団奥羽教区

\* 通信欄に、「秋田豪雨災害支援」または「秋田支援」とお書きください。  
\* 「振替払込請求書兼受領証」をもって領収書とさせていただきますが、別に領収書が必要な場合は、通信欄に「領収書必要」とお書きください。

(別紙9)

## 秋田豪雨災害支援委員会現地会計 会計監査報告書

2024年4月29日秋田高陽教会において、秋田豪雨災害支援委員会 現地会計について、諸帳簿、収支報告書、貯金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正であることを認めます。

2024年4月29日

監事 森豪司 (印)

監事 左伯勲 (印)

(別紙10)

## 準備物品一覧

購入予定リスト

実際準備したもの

	品名	個数	費用 (概算)		個数	費用
1	防塵マスク (3M N95) 50枚入り	20	100,000	⇒	10	42,970
2	簡単なゴーグル(メガネ)	20	30,000	⇒	10	13,300
3	軍手/ビニール手袋 200双	1	10,000	⇒	1	8,580
4	ゴミ袋 (破れにくいビニール袋)	100	3,000	⇒	100	2,095
5	秋田市 指定ゴミ袋45L×10枚入り	10	10,000	⇒	5 (可燃・不燃)	3,838
6	雑巾(大量) 10枚入り×5	5	3,000	⇒	5	3,240
7	タオル	120	8,500	⇒	120	8,203
8	バケツ8L×10、10L×5	15	8,000	⇒	15	7,770
9	仕上げ拭き用使い捨てダスター50枚	2	3,000	⇒	100	2,764
10	塩化ベンザルコニウム液 (逆性石けん)	10	10,000	⇒	10	7,920
11	霧吹き	10	6,000	⇒	10	4,180
12	消石灰 20kg(5kg×4)	3	12,000	⇒	4(5kg入)	2,902
13	上履き用スリッパ200足	1	10,000	⇒	1	7,840
14	手指消毒用せっけん(ミューズ)	8+1	8,000	⇒	9(詰替含む)	6,262
15	ペーパータオル(200枚×10)	2	4,000	⇒	2	3,282
16	フロア扇風機	4	8,000	⇒	3	23,940
17	延長コード 防水10m	4	8,000	⇒	2	6,460
18	ビニールシート(グリーン)	10	2,500	⇒	10	22,690
19	断熱材 スタイロフォームB2厚さ30mm	56	140,000	⇒	—	—
20	養生テープ	10	3,000	⇒	10	2,750
21	備品収納コンテナ 3個組	2	20,000	⇒	6	18,962
22	ヒザあて	20	20,000	⇒	20	18,582
23	長靴 (予備)	5	15,000	⇒	5	12,127
24	マスク (噴霧器使用時の防塵マスク)	5,000	10,000	⇒	—	—
25	フィルター (防塵マスクの交換濾過材)	4	8,000	⇒	—	—
26	ショベル/ガーデニング用	20	10,000	⇒	12	4,200
27	ちりとり	10	3,000	⇒	—	—
28	噴霧器(充電式)マキタ	1	31,000	⇒	—	—
29	高圧洗浄機ケルヒャー	1	16,000	⇒	—	—
30	金たわし大	20	6,000	⇒	20	5,360
31	隙間を掃除するヘラ/サッシブラシ	20	10,000	⇒	20	9,080
32	コードレス掃除機 (マキタ)	3	75,000	⇒	3	53,955

33	充電器・バッテリー	3	30,000	⇒	3	16,837
34	防湿シート50m巻き	4	40,000	⇒	4	34,900
35	土嚢袋(50枚×8)	2	11,000	⇒	1	5,280
36	床下ライト(LEDランタン)	15	37,500	⇒	8	14,736
37	乾電池単1 (2コ×50)	1	10,000	⇒	1	9,900
38	紙コップ 500個	4	12,000	⇒	4	10,332
39	スポーツドリンク(一人用の粉末)	200	14,000	⇒	100	6,243
40	お茶 2L×12	10	25,000	⇒	3	5,370
41	飲料品 ドリップコーヒー 150杯	2	10,000	⇒	2	10,990
42	熱中症対策 飴/タブレット1kg	3	7500	⇒	2	4,395
43	冷蔵庫130L	1	30,000	⇒	1	34,800
44	ネコ(一輪車)	2	30,000	⇒	2	24,980
45	レンジ	4	40,000	⇒	4	39,920
46	電気ケトル(ティファール)1.8L	4	16,000	⇒	4	15,552

追加購入

47	吸水スポンジ	—	—	⇒	10	8,960
48	水(2L×9本)	—	—	⇒	3	2,970
49	てみ (ちりとりの代わりに)	—	—	⇒	10	3,930
50	救急セット	—	—	⇒		10,488
51	冷風機	—	—	⇒	2	18,000
52	熱中症指数計	—	—	⇒	1	7,300

\*表中の赤字の品目については、ACTジャパンフォーラム様支援物品

◎ OBJ様より、パックご飯、レトルト食品、ウィダーゼリー、水等の支援物資  
(オペレーション・プレッシング・ジャパン)

寄贈品

秋田桜教会員様	精米10キロ
ACTジャパンフォーラム牧由希子様	菓子
一関教会様	ペットボトル緑茶
木村伸兄 (大館教会)	缶コーヒー、軍手、ティッシュペーパー
熊谷あけみ様 (秋田市)	消毒液、雑巾
熊本YWCA様	タオル、マスク、延長コード、非常食
野田沢師 (西東京教区)	オスバン
??	パックジュース
??	OS-1

## 物品の事後処理一覧表

No1

	品名	個数	管理先及び譲渡先
1	防塵マスク 3MN95 (1箱50枚入り)	7箱	秋田市社会福祉協議会
2	ゴーグル	10	秋田市社会福祉協議会
3	膝当て	20	秋田市社会福祉協議会
4	バケツ (8L,10L)	計15	秋田檜山教会
5	テミ	10	秋田市社会福祉協議会
6	長靴	5	秋田市社会福祉協議会
7	移植ごて (スコップ)	12	秋田市社会福祉協議会
8	隙間ブラシ、はけ、へら	各10ほど	秋田市社会福祉協議会
9	金だわし	16	秋田市社会福祉協議会
10	吸水スポンジ	8	秋田市社会福祉協議会
11	タオル・雑巾・使い捨てダスター	1箱	秋田市社会福祉協議会
12	使い捨てスリッパ	約150足	秋田市社会福祉協議会
13	滑り止め付き軍手	約170双	秋田市社会福祉協議会
14	ペーパータオル	10	秋田市社会福祉協議会
15	霧吹き	8	秋田市社会福祉協議会
16	単1電池 (使用推奨期限2028.6)	60	秋田市社会福祉協議会
17	ランタン	8	秋田市社会福祉協議会
18	オスバン (逆性石けん)	11	被災信徒宅・秋田市社協
19	消石灰 (5キロ入り)	4	秋田市社会福祉協議会
20	ホース	1	秋田檜山教会
21	防水延長コード 10M	5	秋田檜山教会
22	フロア扇風機	5	秋田檜山教会と大曲教会で各1台使用。残り3台は社協へ。
23	床下送風機	3	秋田檜山教会
24	ネコ (一輪車)	2	秋田檜山教会・秋田桜教会
25	マキタコードレス掃除機	3	被災信徒宅・秋田檜山教会
26	マキタ掃除機備品・バッテリー予備		被災信徒宅・秋田檜山教会
27	冷蔵庫	1	秋田檜山教会
28	単機能レンジ	4	分配教会で活用
29	T-falケトル	4	分配教会で活用
30	冷風扇	2	大曲教会
31	クーラーボックス	1	秋田市社会福祉協議会
32	救急セット	1箱	秋田市社会福祉協議会
33	備品収納コンテナ	6	被災信徒宅・秋田檜山教会
34	噴霧器	4	森分教師に返却

	品名	個数	管理先(案)
34	土嚢袋	約100	秋田檜山教会(側溝泥だし)
35	手指消毒石けん		分配教会で活用
36	上記 詰め替え4L	1	秋田市社会福祉協議会
37	透明ゴミ袋		被災信徒宅・秋田檜山教会
38	秋田市指定ゴミ袋		被災信徒宅・秋田檜山教会
39	グリーンシート	1	使用済みのため檜山
40	紙コップ	1000	社協・被災信徒宅
41	水 2L(1箱×9本)	3箱	story cat
42	お茶 2L (1箱×6本)	5箱	story cat
43	ドリップコーヒー	約100	story cat
	<b>差し入れ</b>		
44	お茶500ml (1箱×24本)	1箱	地区委員会
45	フルーツジュース	10	秋田檜山教会
46	OBJからの食料品	大量	story cat
	(カレー、ハヤシ、パスタソース、ご飯、ウィダーインゼリー)		

※story cat (秋田市のNPO団体あきた結いネットが運営する就労継続支援B型店舗)

ACTとあきた結いネットが協働で、被災者支援を行っていた拠点。

# 豪雨被害 68年前にも



降り続いた雨に水を飛ばした三丁目橋

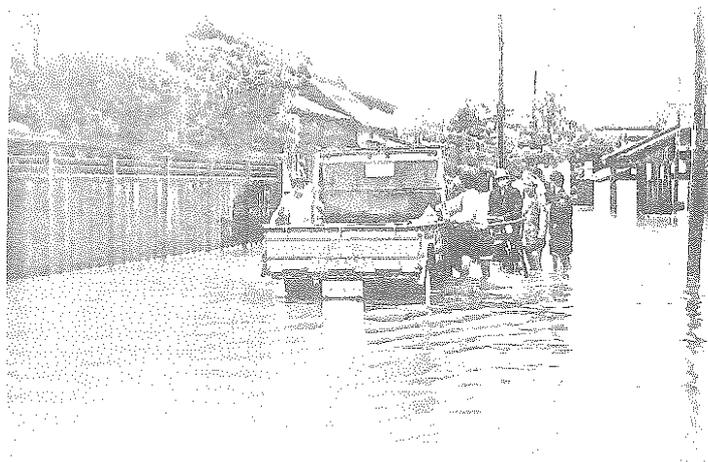
## 越前谷さん(秋田市) 亡父撮影の写真

7月の記録的大雨で甚大な被害が出た本県では、今から68年前の1955(昭和30)年にも総雨量300mmを超す豪雨に襲われ、秋田市中心部などが冠水被害に遭った。当時の様子を記録した写真が、同市榑山の越前谷さん(69)の自宅に保管されていた。

50年代前後の同市の街並みを収めたアルバムの中に、水害の様子を伝える写真が30枚ほど並ぶ。撮影者は、写真が趣味だったという越前谷さんの父・國治さん(故人)。水害の写真のページには「豪雨全県下を襲う」「たけり狂う水塵」といった当時の新聞記事の見出しが切り抜かれ、貼られている。55年6月26日付の秋田魁新報によると、24、25の両日に降り続いた雨で旭川の堤防が決壊し、現在の保戸野、中通、南通、榑山地区などが濁流にのみ込まれた。紙面では「死者四、ゆくえ不明四、家屋全壊九、浸水家屋一万二千」などと、被害の大きさを伝えている。

写真は、旭川に架かる三丁目橋が崩落している様子や、現在の聖霊高校(南通)付近で浸水した草

## 秋田市中心部 橋崩落、冠水の様子記録

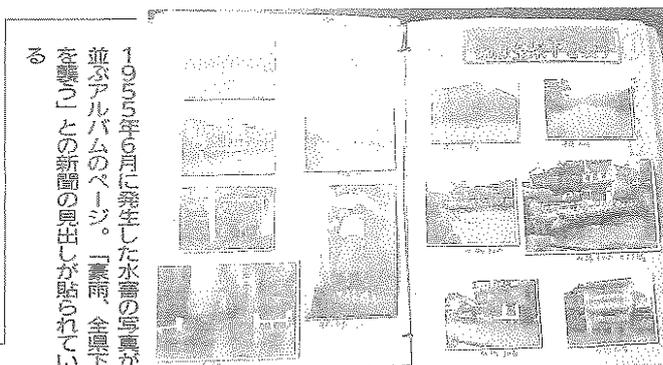


両を押し人々を捉えている。越前谷さんが、床上浸水した実家で祖母におんぶされている一枚もあつた。越前谷さんは「当時のことは覚えていないが、榑山地区が水害を受けやすいことを表す『榑山のけつ(けつ)冷やし』』という言葉葉を昔からよく耳にしていたと語る。

地区一帯が冠水被害に遭った。68年前の水害では、主に旭川と太平川が氾濫したことにより市中心部が冠水したが、先月の大雨では太平川の氾濫に加え、下水道の排水能力が追い付かなくなって市街地に水があふれる「内水氾濫」も要因となった。越前谷さんの自宅は被害を免れたが、数十台先まで濁流が押し寄せた。同地区にある実家は膝の高

さまで浸水した。「浸水した住宅からボートで救助される人もいて、まさかという光景を目の当たりにした。ここに暮らす以上、想定を上回る水害はこれからも繰り返してやってくる。今回や過去の水害を教訓とし、万が一の事があつたら早めの避難を心がけたい」と話した。

(石井ひかり)



現在の聖霊高校付近で浸水した草面を押し人々